

【別紙】

一般社団法人 日本ボクシング連盟 令和4年度 第1回理事会別添資料

2023.4.17 (月) 21:00~22:10

会長挨拶：遅い時間にお集まりいただきありがとうございます。今日そんな長くないと思いますので最後までよろしく願いいたします。

1 議事の経過の要領及び議案審議の結果

1) 決議事項

1. 新規判定システムの支払いに関する件について

仲間議長：具体的に言うと、結構なお金になりますという件と、それに対して立替払いをある程度しないといけないという状況です。判定システムについては前からお話をしていますが、前回のIBAの総会において、会長がプレゼンをしてくださって、不正が疑われた判定システムの改善に繋がるのではないかということ期待が持たれていますけれども、結論から申し上げますと支払いが、1億1000万円ぐらいかかります。これについては1億1500万円の助成金が内定していますが、清算払いとなるため一旦は日連が立て替えて、領収書や報告書を提出する必要があります。金額が大きいことと期間が短いことから銀行から融資を受けることが困難な状況なので我々でこの金額を集めなければならない可能性が大きいというところです。

菊池理事：2019年の東京オリンピック前から、日本ボクシング連盟も運営する中央競技団体としては除外されている状態でした。オリンピック組織委員会の方が、直接運営するという形で、我々には何も携わらせてもらえませんでした。そこで、何かできないかということ考えたときに、強化の方から判定のシステムについて提案が出ました。以前は60対56みたいなラウンドが20点方式だったんですけども、プロと同じように、テンポイントマストシステムで1ラウンドが10点からの減点法というふうになりました。20点の時よりも、一発のパンチの格差が大きく変わってくるということがあって、どっちが勝ったのかわからないことが多いんです。「見る人・する人・支える人」みたいなことがよく表現されますが、見る人が全くわからないっていうことはボクシングにとって絶対に良くないということで、一発一発を当たった数で表記した方がいいです。ということをご提案させていただきました。それによって富士通と開発してどのジャッジがどの時間にボタンを押したとかいうモニタリングもできるというような器具を作りましたが、東京オリンピックまでは時間がない、予選大会をテンポイントでやっているのに、本大会をこの方式でやるというのはおかしくなってくるので結局流れました。しかし、もうちょっとブラッシュアップしていったら本当に信頼のおける、そして、見る側が面白いようなものができるのではないかというふうに考えて、細々と開発を進めていったんですけど、富士通も予算がIOCから打ち切られたので、なくなりました。同時に私の方で考えたのが、スピードが速い連打に関して加点が追いつかないというケースもあったので、これをカメラで撮影して、スロー映像で加点方式をすれば絶対に間違えることがないと。ただし試合が終了と同時に、結果が出るわけではなくるので、フィギュアスケートのような、キスアンドクライのようなものを設けて、絶対に間違いのない判定を下した方が、正しいのではないかという事。それから写した画

像を、得点をいれたまま配信にも使えるようにという提案をしたところ、富士通さんは実は画像解析の方がちょっと苦手でした。システムはすごくいいものを作ってくれていたんですけども、画像解析にAIを入れることになるので、非常に厳しいということと資金難もあったので、何か他のことをできないかと予算を探したときに協力的にやってくれる企業が、今のユニゾンシステムズでした。画像解析を中心にやれるところだったので、空手道の判定システムも作っている会社なので、オリンピックにも関わっている技術的に高い評価ができる会社でした。そういうことで、開発をしてもらいましたけれど、富士通からの技術提供がなかったもので、独自に3,000万円ぐらい使って、開発をしてくれました。その後、とにかく採用してもらって、取り戻せばいいという、ありがたい提案で、一緒にやってきました。そのような中で、会長がIBAの総会で発表することによって、世界中にこういうシステムを日本が作っているということが周知されました。それで、もしかしたらIBAに採用されるのではないかといいところまで来ていました。現在はバウトレビューを採用しているので、今の判定はおかしいというのを、負けた方のチームが申告をして結果が出ると、勝ちが負けになったり順位が変わったりします。またバウトレビューを申告するのに10万円程度かかるので払えない国は不公平感を抱くことにもなります。今回のシステムはAIも入っており間違いのないものですが開発が高額になることが予想されました。去年は予算が1,500万円つきましたが不足でした。この補助金の名称は、「新しい生活様式での選手強化活動事業」というもので、コロナ禍で試合会場に来られない観客が見て楽しむことができるように何とかしているとか、選手強化に役立っているシステムであるとか、そういう条件がありますが、映像分析の録画が配信に使えること、その映像を使って、こういうときにパンチが有効だと認められたぞという、選手強化の教材としても使える。ということで、この事業の目的に適合していました。そういうことで申請を出したのですが、他のNFがほとんど参加してきませんでした。そのためJOCの予算が余っているという情報がありましたので11月末にJOCに行き、このシステムがどういうものなのか、世界のボクシングがオリンピック競技として残れるために、信頼を取り戻さないといけないということを説明させていただいたところ、認めていただけて、JOC側から1億円の再申請をしてくださいという話が来たので喜んで出させてもらいました。しかし、自己財源を使わないといけないという話が入ってきたので、これ概算払いではなんだという話になりました。

井崎理事：JOCの助成金は自己財源がなくても申請できるものもあるのですか。

仲間議長：自己財源がなくても申請できる部分もありますし、使用区分に応じて自己財源の必要性の有無というのが決まっています。

菊池理事：年度末の申請だったので概算払いだと思っていました。この予算はJOCが窓口ですがスポーツ庁の予算です。

仲間議長：期間が短いので銀行からの融資は難しいと考えます。そうなった場合、会長の会社から借用をお願いするということができないかということ、内部の役員からお金を借りるという形が本当に適切かどうかということも含めいろいろと話をしたいと思って集まっていたという状況です。

坂巻理事：この判定システムは、理事みんなで認めて、進めていこうということになった案件だと思いますので、できれば理事みんなで少し持ち出しをし、足りない部分会長お願いします。というような協力体制をとったらいかがかと思います。助成金はいつ入る予定ですか。

菊池理事：5月の中旬から下旬には入ります。

坂巻理事：その時には戻ってくるので立替ができる方は協力するというでいいのではないのでしょうか。

木庭理事：この判定システムにはとても期待しています。私も多少なりとは協力したい。

山口理事：差し迫っているというか、逆に5月下旬には返金ということなので理事でできることはした方がいいとは思いますが。どういうふうにお金の流れが動いたかというのは絶対に後々問われることだと思いますので。銀行融資の話も進んでいるんですか。

及川次長：額が大きく期間が短いのでお断りされました。

室伏理事：急いで適切な判断をしないといけないという状況かと思えます。私個人としての場合ですと、手続きの仕方はすごく気になりましたし、私も小さい会社を自分で運営している法人があるので弁護士や税理士に訪ねることになりますし、自分も経理を行う上で、不透明資金にならないようにしないとイケませんので、もし税理士や弁護士に相談すると、自分の費用は自分で払っていくということになる可能性が高いと思うので、個人で対応するのか、あるいは、この連盟の中でそういったことを対応されていくのか、こういうケースがわからないので、どういう対応になっていくのかなというふうに考えていました。すぐに提案とか結論は出なくて大変申し訳ないのですけれどもやはり大きなお金の流れがあつてそこに皆さんが関わるところで、透明性のあるやり方というか見えるように、専門家の方に聞かないと判断がなかなか難しいかと思いました。

内田会長：小池さんがその処理の仕方の件は詳しいのではないですかね。

仲間議長：法的なところに関しては会計士さんじゃないとわからない部分とか、税金のこととかも絡んでくるので、例えば、以前に助成金が全部切られたときは、理事から105万円のお金を集めさせていただきましたが、そのときは領収書だけを発行して、おしまいになったと思いましたが、今回に関しては返さないといけないので、変に動かすと、脱税を疑われるとかいった形が発生するので、どういうふうにするのが適切かは必ず聞いてやらないといけないと思えます。

内田会長：これは、いつまでに必要ですかね。

菊池理事：4月中です。今も待ってもらっている状態です。

仲間議長：資金に関して、理事、有志から、借用するという形で、弁護士さんとか会計士さんとかへの相談も含めて、賛成か反対か決を採りたいと思えます。

(賛成の方18名。反対の方1名。賛成多数で可決)

成松理事：有志ということで、私は微々たるものしか出せないで反対に手を挙げました。

佐藤理事：一つお聞きしたいことがあります。このシステムに関しては現在、開発途上という捉え方でよろしいですか。

仲間議長：運用可能な形で出来上がっています。

菊池理事：追加というか、今後のことでお話させてもらいます。出来上がりとしてはこの前大会でお見せした状態から4Kを取り入れているので、画面がものすごく見やすくなって、判定が下せるようになります。これが完成品になる予定です。その完成品をIBAが、6月22日から25日に鹿児島で行われる九州大会に視察に来る予定です。しかし、実は世界で今IBAに反対をして、アメリカやオランダ、イギリス、ニュージーランド、スウェーデン、ドイツ、フィリピン、チェコ、カナダあたりが、新団体「ワールドボクシング」という組織を創設設置しました。今後、IOCに自分たちを認定してくれと、IBAから変えてくれと、いうふうな交渉をする予定のようです。IOCの渡辺会長に確認させていただいたところ、それを認定する予定はないとのことであった。

したがって、オリンピックをもし排除すれば、I B Aがその他の国際大会を運営するだけということになり、それがあから、この九州大会に本当に呼んでいいのかという問題があります。今言ったように、新しい団体が、今こんな状態です。今確認しても、どちらが優勢なのか。わからない状態です。私達はこの前決議しましたよね、オリンピック出場の方を選ぶということで、I O Cに、もちろん審判とか、リングサイドドクターとかを要求されればもちろん参加を進めていくという形で、結論を出したと思いますが、そのI O Cが認定するかどうか、どちらを認定するかというところは、実は不透明です。なので、この九州大会に呼んでいいかどうかという迷いがあって、私としては判断できないところです。先ほどユニゾンシステムズというところが、最初3, 0 0 0万円ぐらいの開発費を自分たちでかぶってやってくれたという話がありましたけれども、今回の費用の中に実はそれは踏み込んで入れてあるんですね。自分たちで使ったことも請求してもらったんです。その結果として、逆に言うと九州大会とか、今後の国際大会でプレゼンをしなさいといけないとか、デモをしなさいといけないとかいうところで、来日の費用とか、宿泊費用とか、日本から行ったときとか、そういったときの費用は負担してもらえることになっています。とにかく一緒に、このシステムを認めてもらえるまで一緒に頑張りましょう、という協力の仕方をしていただけることになっていますので、呼んでもいいんですけど。これはすごく難しいと思います。そういう状況です。システムはもうほとんど出来上がりました。

仲間議長：6月の九州大会で間に合うのですか？このシステムの納品書と使用実績の提出は6月まで大丈夫ですか？5月までにとなくなっていましたけど。5月、6月とはまた別で、それまでの大会で出した分、使用実績ということで提出するということですね。

菊池理事：ここは会社の方で、請求せずにやってくれるものです。この前も、宮崎での大会でA Iが学ばないといけないので、とにかくこの二つは日連に請求する金額の中に含めていない。A Iに学ばすための努力です。

仲間議長：そうではなくて、その助成金が下りる条件に、5月、6月までの全国大会での使用実績を添えてくださいと書いてあるんです。

菊池理事：4年度のものにですか？

仲間議長：全国大会の使用実績を一つ添付してって確か書いてありました。

菊池理事：全国大会で使用実績は作れないですよ。I Fが認定しているものじゃないので、これで試合をしてはいけません。

仲間議長：だから、横で使って実績を作ってくださいということです。

菊池理事：全日本選手権でもやっています。

仲間議長：やっているけど、それは全日本選手権で完成品でない4 Kを使っているものじゃないけど、それを出してもいいってことですね？

菊池理事：そうです。

仲間議長：はい、わかりました。新団体に関しては、だいぶ話が飛んだので、先にその話からします。先日、I B Aがオリンピックの派遣に対して役員の派遣などの妨害になるようなメールに関して、I O Cと話をさせていただいて、先ほど菊池理事がおっしゃったように、我々としてはそちらを優先しましょうという、オリンピックに出るオリンピックに役員を送るという形を優先しますという決議をしたということは記憶に皆さん新しいかと思います。先日、インサイドゲームズという例のネットのサイトですけれども4月14日付けで、新たな新国際ボクシング団体ワールドボクシングを作ったということで、オランダ、アメリカ、イギリス、ニュージーランド、ドイツ、スウェーデン、アジアからフィリピン、という形です。新団体を設立した方々にとっては、I Fとして、I

IOCから認定を受けて、オリンピックをこれで運営をしてくださいという形で後押しをして欲しいと思って活動を開始したという状況があります。結局そこに関してはたくさんの国々が手を挙げて参加しているわけではなくて、世界選手権に対してボイコットなどを行っている国、IBAのクレムレフさんの対立候補として名を連ねていたオランダのバンデンモーストさん達、またUSの方々を筆頭として新しい団体が作られているという形で、完全にIBAとの対決姿勢を示しているということで、今、菊池理事がお話をしてくださったとおりです。この人たちがIFに関してどうなのかということを、菊池理事が渡辺さんに情報収集をしてくださっていますけど、現状としては、認める方向ではないということなので、現状は他の国際大会をIBAが統括して行っていきますし、オリンピックに関してはIOC内のタスクフォースが取り行うということに関して決定している。ただし、ヨーロッパの大陸予選に関しても、ロシアとベラルーシが出場できないということを理由に取り消しの訴えとかが出されている状況なので、混沌としている状況です。一旦、IBAに対して僕らもIOCのオリンピックの役員派遣の件については、個人に任せる形でIBAにちょっとアゲインストの対応をしているという部分ありますけれども、今回それをIBAの方を呼んでプレゼンテーションをして採用してくださいとか、新しい団体の方を呼んで何かしてくださいとか言うと完全にそういう姿勢を示すことになってしまうので、菊池理事が気にしていたのはそういった部分になります。IBAという団体は世界選手権を初めとする、IOC関連以外の競技に関しては全部コントロールをしているし、役員も当然認定がされているという状況なので、難しいですね。そこをないがしろにもできませんし、世の中の的に正しそうな行動をしているところに諸手を挙げて賛成という形にもしづらいという状況。判定システム的には両方に売り込めれば一番いいんじゃないかなと思いますが、政治的に難しいというのが、現行の状況かと思います。

佐藤理事：お聞きしたいというのは二つありました。まず一つは、1億1500万という経費が今請求されているという、それはもう現状の事実でどうするか今決定してわかったんですが、今後、例えばユニゾンシステムズから、それ以上の請求があるのかどうかという点、おそらく私を含めて他の理事の方々もそれは大変懸念するところだと思います。それからあと、これだけ費用をかけた次世代判定システムについて、今仲間議長は両方天秤にかけるわけにいかないとおっしゃいましたけど、IBA、ワールドボクシング、それからIOCのタスクフォースのどこかにやっぱり採用されて、このシステムが生産性を上げることが、例えばパリ五輪の後もこのシステムを、世界の状況を見ながら、売り込んで生産を上げるというところだと思うんですが、その辺のビジョンを今、すぐ明確な答えをお聞きするには難しいところだと思うんですけど、その辺についておそらく他の理事の方々も知りたいところではないかという気はするんですが、いかがなのでしょうか？

菊池理事：費用に関しては、終わりだと思います。AIも、試合の流れを先読みして、カメラ位置を変えたりとかする能力も身につけたので、もうほぼ完成度が高いです。あとは、採用していただいてからブラッシュアップして行くのは、人がいない判定システムにしていくことが最終目標になっているので、そこはもう、採用してもらったところで、開発を続けていくっていうことに、永遠に続けていくことになると思うので、そういう形になると思います。でも、先ほどのどちらかに採用してもらうのはIOCでないのは確かです。もうやっぱり国際的なボクシングを運営する団体が、判定システムを採用しないといけないと思うので、すごく難しい段階に今いると思うので、ちょっと間違えると採用されない可能性があると思います。すごく恐ろしいです。

仲間議長：非常に難しいというか、前回のIBAの総会でプレゼンテーションをすることができたのも、会長がウマル・クレフレムと非常に友好的な関係性をうまくこの数年かけて作ってきてくださって、それでもなおIBAの中では事務総長さんが、判定システムを作って、彼が考えたシステム的なものが採用されてきている中で、日本連盟が提案してきたものに関して知らないうちに蹴られてしまっている状況を会長がひっくり返して、プレゼンテーションを行ったという形なので、正直、IF内での政治力が相当ないと売り込んでいくことは難しいわけですね。現行かなりいい段階まで来ていたIBAはこのまま押せば、いけるんじゃないかっていうとこまで来ていた中で、IBAに若干ネガティブな対応していることも採用されるかどうかすごくやっぱ気になる点なわけですけども、今回のこの立ち回りで、そのIBAについて、これを推して行って万が一IBAではなくて、新しい団体に、ひっくり返されたときは、判定システムを採用するということは可能性は低いでしょうし、逆に言うと、新しい団体にくっついて提案をしたものを、IBAが採用するというのも、なかなか難しい。やっぱり若干日本が現行のIBA体制寄りだっていうふうには、オランダであったり、アメリカであったりそういったレベルの方々っていうのは見ている可能性はあるでしょうから、そこで提案をしてきてる判定システムがすごく採用されるかっていうと。ちゃんと動かないと、せっかくここまで仕上げてきたものが、ここにきてIBAが崩れてしまうと同時に、崩れてしまうという可能性が否定はできません。

菊池理事：ちょっといいですかね。今言った6月の試合に来てくださる予定の方はですね、最も日本のシステムを入れようと思わない事務総長です。その方と全ての委員会R&Jとか、全ての委員会のトップにいるクリスっていう委員長です、この2人を呼んでいます。もう来る予定で呼んでいますというか、もう日程を調整してもらっていて、この日だったらいけるよっていう返事もらったところです。ここでストップしているんです。事務総長は、スポンサーのスイスタイミング社にかなり肩入れをしている方。スポンサーを氣遣うのは当たり前だと思いますので、そういう関係です。専務理事が言ったとおり、ここに肩入れしている状態で、実際にワールドボクシングが政権を取ったときには、もしかしたら採用されない可能性があって、いったいこの今までの努力はなんだったんだっていう話になりかねないって話です。

井崎理事：議題を戻しませんか。ズレてる気がするんですけど、このまま話していると終わらないような気がします。

仲間議長：こういう状況なので難しいというか、僕らが情報収集を一生懸命、事務局の担当者にもお願いをして、細かい状況を収集してやっている状況ですので、あんまり細かく発信すると混乱を生みますので、状況が整理でき次第発信をしていくようにしますのでよろしくをお願いいたします。

菊池理事：だけど、もうすぐ文書出さないといけない時期に来ているんですね。なので、どこかで判断、この数日のうちにしないとイケなくて、今日の理事会で雰囲気はつかんで決めようと思っていました。

内田会長：私プレゼンしたんですけど、私的にはですね、呼ぶべきだと思います。実際に新しい団体ができたとかはどうかのこのことを言っているんですけど、現状をやっぱり、政権を握っているのはIBAですから、やっぱり呼ぶべきだと思いますし、理解させることは、どちらの政権になったとしても大切じゃないかなと思います。そういう、今までのボクシング界で、あの不正判定とかそういったものが問題になってきたわけですから。そういった中で不正をなくしていこうというような新しい政権なっても、もう古い政権でも一緒ですから、やっぱり私的には呼ぶべきだなというふうに思います。

仲間議長：正しい動きだと思いますので、ちゃんと今までやっていることで、新しいところが出てきたからそこに急にというのが私はおかしいと思います。こちらに関しては別で、大体状況を把握していただいたので、ご意見はいくつかいただきたいと思いますが、呼ぶ、呼ばないに関しては近日中に、ちょっと理事会開いて決定をしてというのは難しいかと思うので、決める段階で、ご意見をいただいて何か書面決議するかどうするか、考えさせていただきたいと思いますが、近日中にそういう重たい決定をするという形を共有していただけたらと思いますが、それでとりあえずよろしいですか。菊池理事大丈夫ですか？

菊池理事：はい、大丈夫です。

仲間議長：いろいろと情報収集されたいとか、ご意見ある方は直接でも構いませんし全体でも構いませんのでご意見をいただければと思います。ちょっと、あとはクイックに進めます。

2 令和5年度マスボクシング大会について

仲間議長：マスボクシング大会に関して、開催要項が出ているんですけども、今回群馬県高崎市で開催されますが、このように改正要項が上がってきているんですけど、階級が元々競技規則に書いてあるものと違いますので、現行の規程から言うとこれは理事会で承認して、競技規則と違う形で運営しないといけないので、承認をいただきたいと思います。ご質問などありますか。大丈夫ですか。なければ、承認という形をお願いしたいと思います。審判部林田理事ありますか。

林田理事：はい、普及委員会の方と審判部でいろいろ話し合いをしてきた中で、このような案になりました。今回この要項の内容で認めていただけたら、今回の群馬大会が終わってから、正式な競技規則を今年度中に作りたいと考えています。よろしくをお願いします。

仲間議長：はい、ありがとうございます。すいませんシェアができていませんでしたけれども、運営委員会と普及委員会、審判部で話してきた現行の競技規則と異なるけれども、開催要項に書いてあるカテゴリ階級で試合運営することに関して反対の方、挙手をお願いします。（反対意見なし）

3 女子委員会副委員長追加の件について

仲間議長：女子委員会副委員長の追加の件についてですが、現行の女子委員会の副委員長が2名、理事で入っている岩崎さんと前田先生が入ってらっしゃるかと思います。運営上でもう1人追加をお願いしたいということを聞いています。大谷さんを追加したいということですけども、副委員長増員の相談があり、マネジメントスタッフと指導のコーチの外部団体との連携をスムーズに行うには副委員長2名体制では厳しいので3名にしたいということで、富山県スポーツ協会から大谷栄二郎さんが、このような実績があって現状女子強化委員として活躍していることに関して、委員長と副委員長に関しては理事会での決定事項なので、承認をしてもらいたいと来ております。こちら委員会のことなので、この場で承認いただければと思います。木庭副会長と須佐理事、この件に関して追加することなどありますか。

木庭副会長：相談は受けていました。女子委員会の方も2名じゃないといけないというわけでもありませんし、大谷さんは実績等あって、ぜひ副委員長にという形で推薦されていますので、皆さん承認していただければと思います。よろしくをお願いします。

仲間議長：では採決に入ります。現行の委員である大谷さんを副委員長に追加の件に関して反対の方いらっしゃいますか。（反対意見なし）

4 アンチ・ドーピング委員会規程改定について

仲間議長：アンチ・ドーピング委員会規程に関して、実はこれ、完全に私の不手際で本来昨年の理事会のどこかで可決をされていないといけなかったはずですけども、2022年1月1日施行の規則が、承認がされないまま委員会で承認されて、報告という形だけで上がっていったら、採決が取られていなかったということが、アンチ・ドーピング委員長の門田先生より指摘をいただきました。こちらに関しては、改めて採決を取り直して承認をいただきたいと思います。内容に関しては、特に何か特記すべきものは、ないかと思えます。手続き的な部分になりますので、皆様賛同いただけたらと思いますが、何かご質問などいかがでしょうか？はい、杉崎理事お願いします。

杉崎理事：施行期日の取り扱いですけど、やっぱり理事会承認という日付を入れておかないと、規程としてはおかしいので、遡及して適用する。今日の日付と、遡及するところを、最後の附則のところに入れておく必要があるかと思えます。

仲間議長：そうですね。

杉崎理事：その下に、附則として、何日の理事会承認で遡及して、この日から適用するという形でいいと思います。

仲間議長：はい、ありがとうございます。その文言を追加して決議をさせていただきたいと思えます。質問いかがでしょうか？大丈夫ですかね。では、アンチ・ドーピング規程に関して、承認に関して反対の方挙手をお願いします。大丈夫ですね。はい。こちらに関しては承認とさせていただきますありがとうございます。

2) 報告事項

5 医事委員会から感染症対策に関する報告について

仲間議長：医事委員会から感染症対策に関する報告ということで、前回からのコロナのときに最初に出た案のガイドラインとか、そういった形が出ていたと思うんですけど、これも今後どう扱うかということだったんですが、医事委員会のLINEグループ上で、ディスカッションさせていただいたんですが、医事委員会としては特段に現行としては医事委員会の作った全国大会に対する規程という形で、最初に出たのがブロック大会と全国大会、要するに人が移動することが多く出てくるところにPCRをしましょうとか、何かこうしましょうとか大きいものがあつたわけですけども、こちらに関しても現行のいわゆる運営体制、政府が認めた所ともだいぶんかけ離れてきているという状況がありますので、特に医事委員会として制限を設けず、各自大会の実行委員会委員が設ける競技規則に準じて感染対策を行ってくださいという形でアナウンスをしたいということで坂本委員長から報告がありましたので、ご報告とさせていただきたいと思えます。こちらに関して何かご質問などありますか？大丈夫ですか？要するに、あの地域の状況とそこの実行委員会にお任せしますという形になります。ありがとうございます。

仲間議長：一応以上になります。他ご質問など何かありますか？あと、もう1個ありました。お金の話なんですけれども、登録システムの支払いの件についてです。登録システムの現行運用がされている登録システムなんですけれども、豊田前事務局長時代にお話があったと思えますけど、見積りが来ない状況のままで、受注がされて、実際にシステムが出来上がって運用を開始しているという状況があります。最終的に、システムを作ってきた会社に対しての全額支払いができていない状況になります。こちらに関しても、請求書が最終的に2000万という形で上がってきているという状況になります。お金

を支払うのは当然なんですけれども、昨年度の決算分に入れないとおかしいのではないかと会計士さんから指摘を受けていて、ただし昨年度の会計に入れてしまうと、マイナスの赤字決算という形に落とし込まないといけなくなってくる可能性があるのも、そのあたりについて菊池理事、最終的なお話とあって、僕が持ってない情報を持っていらっしやいますか。

菊池理事：登録システムについては、もう以前からあの会社ですね。会議を持ってくれと言っても持ってくれない、契約書も何も交わしてない。金額はいくらかかるんだと聞いても答えません。本当におかしいと思いますこの会社は。及川さんが手挙げていますけども、及川さんにこのことを繋いでくれってことを言っていますが、まだ私はその会議に出たことはないですね。

及川次長：請求書という形ではいただいているんですけども、どれぐらいで、今までどのぐらいかかっているのかっていうのは、9月時点でいただいております、あとはその後のお話し合いの調整ができていませんでした。

仲間議長：結局、現行として請求が来ていて、支払っていない部分が2000万ぐらいあるという形でそこに関しては、どこかで支払いをするのか、そのお金の金額がっていう話をしないといけないんですけども、問題はその会計士さんに登録システム費として、2023年度の予算として2000万計上させてもらっているんですよ。2022年に支払いをしないと、会計上の問題があるのではないかと戸川先生から指摘を受けているという理解でいいですね。なので、その2000万円を2023年度に入れると、赤字決算というのを避けることができると思うんですけども、請求書の日付変更とかがグラフィイトさんとかと交渉してできれば、対応が可能だと思うんですけども、そうじゃない場合この2000万が2022年度の会計に入ってくると、大きい赤字決算という形になる可能性があるのもそれはちょっと避けたいっていうのが、私が今持っている情報です。及川さんそれ以外に、何か追加情報ありますか？

及川次長：いえ。大丈夫です。

仲間議長：一応これに関して土曜日に戸川先生と話を予定しています。菊池理事、追加情報を何か持ってらっしゃいますか？

菊池理事：9月にグラフィイトから請求が来ていて金額がわかっているっていうのは知りませんでしたから、今までもミーティングをさせてくれっていうことを何度も伝えているにも関わらず答えない、とんでもない会社だなと思っていましたけど、及川さん来てたんですね。

及川次長：はい。

菊池理事：それは会長と会議をしましたか？会長は会議をさせてくれとずっと言っていますよ。

及川次長：そうですね。すいません。それは私の手落ちだったと思っております。

ちょっと直接会長といきなりっていうのは。

菊池理事：いや、いきなりじゃないですよ。今までにいくらかかるのかっていうことや、契約の内容とかを示してくれっていうことを、ずっと言っているけれども、回答してこないんですよ。来ているかもしれないけど、私達には伝わってないんですよ。なので、一度直接喋らないとこれどうしようもないと。いくらにふくら膨れ上がっているのか、今後いくらかかるのか全くわからないので、ちょっとそこを説明してほしいということを伝えたんですよ。それで、相手の会社の方にも、会社社長じゃない方が1回オンラインで繋がったことがあったので、すぐに対応してくださいってこともお願いしました。けど返事がないんですよ？

及川次長：ないわけではないんですけども。

菊池理事：あったかもしれないけど、私は知らないですよ、聞いてないので。私はないと思って

いたので、それはちょっとかなり問題があったんだと思うんですよね。それをちゃんと伝えてもらって会議しないといくらかかるのかというのが、先が全くわからないという話です。最終的にいくらかかるんですかこれ。

及川次長：まだまだお願いしたいことも多々ありまして、ただ、もちろん判定システムのようにお金がないと進められない話でもあります。まずは、この基幹システムできたものに対しての報酬をお支払いしないと訴えられてしまうような形になってしまいますので。

仲間議長：2000万に関しては、前回の予算に計上してあるんですよ。2000万払うかどうかは別として。だから2023年の予算にとりあえず計上してあるんですね。だから、そのお金を支払うことはできると。できるというかその帳簿上はできるので、実際にそれをだからお金をどうするかとか支払いの日付がっていう形をどうするかっていうことに関しては、一旦だから会社の向こうの会社も含めて、こっちの会計士さんも含めて話をしないといけないと思うんですけれども。とりあえず、お金に関しては1回金額が出てきています。だからそこを計上して、運用しているシステムについてはお金を払いますねという話になっているので、そこは大丈夫だと思います。ただ、元々の金額、最初に言っていた話よりも、やっぱりどんどん膨れてきて、なんていう今度システムのメンテにどれぐらい、維持にどれぐらいかかるのかとかがちゃんとできてないので、実際にいろいろと話をされた菊池理事が、その不信感を持たれているのは当然のことだと思います。2022年度決算を赤字にするというのは法人決算赤字っていうのは非常によろしくないもので、それは避けたいというお話のご報告をさせていただいたという形です。多分請求書の日付をなんとかして、どちらかが仮払いとかになれば何とかなるんじゃないかなと思いますが、ちょっと戸川先生と小池さんと、メールでやり取りをしたけれども、あまりかみ合わないので土曜日に一旦戸川先生とも会ってお話しします。一般法人会計と公益法人会計2回登場しますので、その分まで含めてきちんと話をし、また改めて報告しますという報告でした。

菊池理事：わかりました。

仲間議長：何かこの点に関してご質問ありますか。すいません、なんかもうお金がない中でいろんな人が工夫をしていろいろやっている状況なので、情報の共有とかができていないと、トラブルになりがちなのですけれども、菊池理事がいろいろ矢面に立って交渉してくださっている中で、どうしても常勤じゃなくなっている中で、及川局次長がそれを引き継いでいろいろ交渉してるのが、ちょっとコミュニケーションエラーがあったり、情報が全部共有されていなかったり、あとは、会計士さんが考えている理解と、向こうの会社が考えている理解とこっちが考えている理解がなかなか一致しないので、とりあえず赤字決算にはならないように、さっきの問題と違ってお金が何もないので、何もお支払いができませんので赤字になりますというご報告ではないのでそこは誤解しないでいただければと思います。他何かご質問ありますか。大丈夫ですかね。またその会計士を含めてお話した結果に関しては、一旦共有させていただいて、会社とも実際にミーティングしないといけないと思います。またそれもまとまりましたら共有させていただきます。特に質問なければ以上で終わりたいと思います。

内田会長：すいません。誰がいくら協力するかというのはどうやって連絡すればいいんですか？誰に連絡するんですか？

仲間議長：とりあえず。多分全体のどこにお金をどうだっていうわけにいかないのか、個人で出せるのか、会社で出せるのかとかそういったことによって違うと思います。明日会計士さん含めたところで、ちょっと聞いて、現実的に出せるのかってなったときに、これ個別で例えば事務局とか誰かに送ってもらうっていう、これぐらいなら出せますとかいう金額、例えば5万円だったら大丈夫ですとか、何かそういう話、そんなにも本当に100万円出してく

ださいという話は全然ありませんので。坂巻副会長は全体のご負担になるんじゃないかって話をしていましたが、全体で1人例えば5万円×20何人で、全体で100万円集まりましたとか、10万円×20人で200万円集めましたとか、多分そういう形で少しだけでもという話だと思います。1人一括いくらかかだつたらすぐに決まるかもしれないですけども、なかなか決めきれないので、個別金額に関して本当にできる限りで構いませんのでという言い方しかないかなと思います。

内田会長：できる限りいいですけど、皆さんの情報をいつまでに集めて、いくら集まりましたっていうのは、いつまでに締め切りですか？

菊池理事：お金が集まって、お支払いを来週末ぐらいにして、再来週ぐらいには、領収書類が揃って、そして提出っていう形にならないと間に合わないと思います。

仲間議長：だから、今週中に可能か、どれぐらいお金を出してお金を準備してこうしましたっていうのは少なくとも、この1週間とかでないといけないのは確かですよ。

菊池理事：そうですね。示さないで、他力本願で申し訳ないんですけど、会長も準備する金額も、予測つかないんじゃないかなと思います。

内田会長：とりあえず、誰がその受付をするかだけは決めましょうか？

仲間議長：金額的にいわゆる法的に妥当だとかいろんなことができるんだつたらこれぐらいが出せませうとかいう金額ってことですね。誰かに集約して送ってもらうってことですか。

内田会長：例えば仲間先生がいくらですよっていう報告を入れるか、誰か1人にしないとバラバラしても話にならないです。

仲間議長：事務局員誰か1人にするか、私にするか。

内田会長：仲間先生でいいんじゃないですか。

仲間議長：私に送ってください。そのいわゆる協力が可能なのか。可能じゃないのか可能だとしたらいくらぐらいなのかとか、あと、手続き上不備がないことがない場合という形ですけども、どれぐらいなら可能なのか僕の方に連絡をください。

内田会長：それともう一つ、例えば1億1500万とか、8000万とかという話がバラバラなっているんですけど、基本的には8000万ですよ。

仲間議長：連盟のお金を全部出せば8000万になるはずですよ。最初に小池さんから足りませんと聞いている金額は8000万です。現状、いくらあるのかと、ウズベキスタンに行く遠征分とか女子世界選手権の分でもどれぐらい必要なのかということに関して私も知らないです。支払いをしないといけない分がどうなっているのかに関しては、実際に現金が2000万あるのか、3000万あるのかに関しては把握していません。

内田会長：私が知りたいのは、金額も大きいので8000万用意すればいいのか、1億用意すればいいのかを聞きたいんです。私が聞いた話では、及川さんも一緒に聞いていたと思うんですけど8000万だったですよ。

及川局次長：そうですね。小池さんにもう一度確認します。

内田会長：わかりました。じゃあこうしましょう。今日17日なので19日までに仲間先生に皆さんが連絡するというところでどうでしょうか。

仲間議長：その間に、全体としていくら必要なのか、手出し分でいくら必要なのかというところまで含めて、8,000万でよかったですとか、1億入りますとか、そういう話も含めて、金額をはっきりさせて全体共有させていただくという形でいいですか。

内田会長：いいと思います。やっぱり金額が定まってないと、なかなか今の金融機関って相当難しくてですね、簡単に何千万もおろせるものじゃないです。お願いします早めに。

仲間議長：それと同時に運用面に関してどうするかというのを確認をしますので、よろしいでしょうか？

坂巻副会長：通帳はどうですか。新しい通帳を作っておかないと、いけないですかね？

内田会長：新しい通帳を何個も作れませんので、これだけの専用の通帳というのは。

仲間議長：公益法人なので、そんなにたくさん通帳を持ってないので、本来は公益法人会計と1個になるという話だと思います。

内田会長：及川次長、公益法人の通帳は出来ましたか？

及川次長：寄付用のやつは申請が全て終わって、まだ番号が来ていないと聞いています。

内田会長：これは先週末までにできるという話じゃなかったですか？

及川次長：早ければという話でした。明日、小池さんにも確認します。

仲間議長：他いかがですか。お金の話ばかりで、いい話ばかりじゃないので非常に心苦しいところですが、なれば、議長おりますので、会長最後締め挨拶をお願いします。

内田会長：長時間お疲れ様でした。お金の話ばかりで申し訳ありませんが、みんなで協力して頑張っていきましょう。お疲れさまでした。

以上